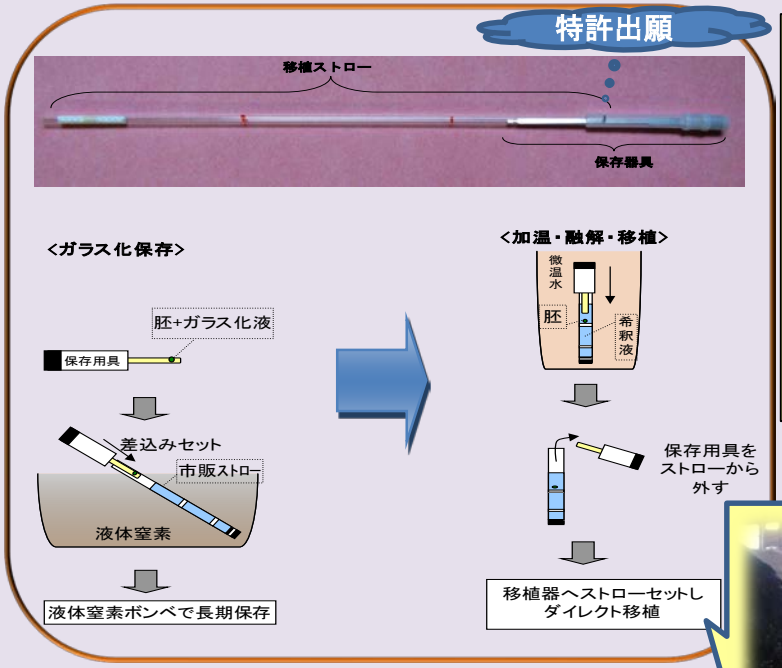
産地ブランド発掘事業
取組概要
（H26 ～27）

『 高受胎率・和牛ガラス化保存胚のダイレクト移植 』を活用した山形生まれ山形育ちの高品質な山形牛を産地化するコンソーシアムを形成する取組 ＝山形県＝

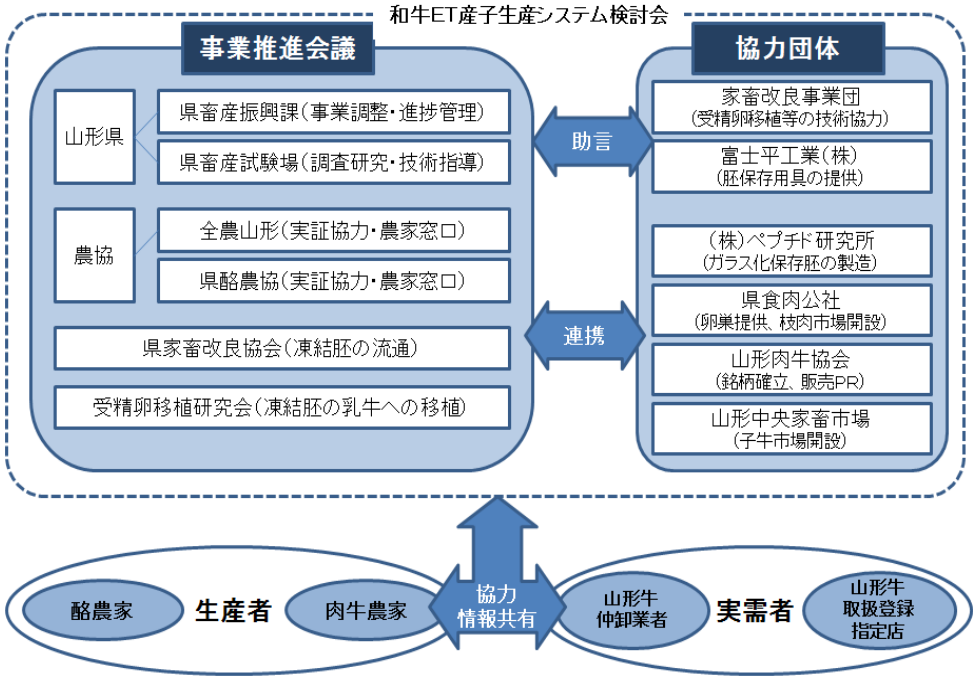
【全体概要】 山形県は、肥育素牛の約8割を他県に依存している状況であり、素牛の自給率向上、高品質安定供給に向けた対策が求められる。また、酪農経営においては、生乳生産のみでは収益が上がらず、受精卵移植による所得確保が望まれている。このことから、山形県において開発した簡易にダイレクト移植ができ、かつ高受胎率の保存胚技術を活用し、「山形生まれ山形育ちの高品質な山形牛」を産地化するコンソーシアムを形成する。

新品種・新技術等の概要



従来の凍結保存では、高い受胎率を得ることが難しかった体外受精卵や低ランク受精卵などに適した新しい超急速ガラス化保存法です。しかも、農家庭先で容易にダイレクト移植できることが大きな特徴です。

コンソーシアム候補の体制図



主な取組内容

- 酪農家と肉牛農家の連携による和牛ET産子生産システムの検討
- 新保存用具を用いた高受胎率・プレミアム和牛ガラス化保存胚の製造
- 体外受精胚の一層の生産効率化と受胎率向上に関する技術改良、マニュアルの整備
- 受精卵移植師、獣医師との連携による生産現場でのダイレクト移植技術の実証
- 新技術の実証に向けた生産者団体等との調整・連携
- コンソーシアム形成に向けた関係者との検討会の開催

課題と今後の対応

残された課題としては、受精卵移植技術師の一層の技術向上と定着化および生産されたET和牛子牛の評価向上などが挙げられる。今後は、これまでの事業成果を踏まえ、引き続き関係者による情報共有化と連携強化を図りながら情報交換会や技術研修会を随時開催するとともに、生産者と実需者のマッチングを推進することによりコンソーシアム候補形成の実現化を目指す。